

特集 2019年日本映画総括 編集部

「シネマ游人」が選んだ日本映画ベスト3

昨年は外国映画に圧倒され、日本映画は小粒で元気がなかった。そんな中で政治サスペンス『新聞記者』が異彩を放った。その作家魂に敬意を表し前号の特集に続き、「シネマ游人」として特別賞を設けることとした。

さて、初号以来参加していた東京スポーツ映画大賞イベントが、残念ながら今年度は中止になった。この機会に、小誌の日本映画ベストワンの選出方法を見直し、ベスト3まで挙げ寄稿していただいた方々のコメントを載せることにした。(①〜③順不同)

【作品賞】

①『火口のふたり』 荒井晴彦監督

大半が濡れ場だが、何故か引き込まれるような魅力的な映画だった(西松)、日活ロマンポルノの継承例として(藤田)

②『新聞記者』 藤井道人監督

内閣調査室へ、とにもかくにも切り込んだ点(藤田)

③『カツベン!』 周防正行監督

これぞまさしく活劇、虚実を交えて日本映画の古き良き時代をエンターテイメントに仕上げている(安井文)、現代の暗い時代に、この明るさはあるがたい。大いに笑って(池村)

【監督賞】

①藤井道人 『新聞記者』、『ダイアモンドナイト』

昨年公開の2本の映画が素晴らしかった(村上)、弱冠32歳の藤井が取り組んだ初めての政治ドラマに喝采(林)

②今泉力哉 『アイネクライネナハトムジーク』

『愛がなんだ』

身近な若者の恋愛病を巧みに切り取るセンスが素晴らしい(林)

③白石和彌 『風待ち』、『ひとよ』

裏社会を暴く作品で台頭してきた白石、家族の在り様を描くには今一歩か(林)

【主演男優賞】

① 綾野剛 『樂園』、『閉鎖病棟 ―それぞれの朝―』

今までになく弱い人間をよく表現している(中村)、全く異なる作品の役柄を繊細にリアルに演じた。演技の上達を感じた(西松)

② 池松壮亮 『宮本から君へ』、『よこがお』

まさに宮本を体現していた映画、見ている間に嫌いになった程その熱量に脱帽(安井文)、醜い闘いが最高(村上)

③ 成田凌 『カツベン!』、『さよならくちびる』

『愛がなんだ』

活動弁士の技術を短期間で習得し、自分のものになっている。これからの活躍が楽しみ(安井文)

【主演女優賞】

① 蒼井優 『宮本から君へ』、『長いお別れ』

乗り移ったような、成り切り型の天才的演技はすごい(西松)、非常に難しい役柄を見事に引き寄せ、まさに体現している。その勇気と熱量に敬意を表したい(安井文)、美女かブスカ判別不能の全身女優(林)

② 小松菜奈 『さよならくちびる』

『閉鎖病棟 ―それぞれの朝―』
二つの違ったキャラクターを上手く熱演、二つ合わせて評価、期待を込めて(西松)、クライマックスの感動が忘れられない(村上)

③ シム・ウンギョン 『新聞記者』

『ブルーアワーにぶっ飛ばす』
へタウマな日本語がクセになる(村上)、また彼女の出演作を見たくなる(田中)

【助演男優賞】

① 渋川清彦 『閉鎖病棟 ―それぞれの朝―』、『半世界』

ひょうひょうとした持ち味を發揮(井上)、にじみ出る邪悪さ(村上)、憎まれキャラ全開(田中)

② 中村倫也 『屍人壮の殺人』、『台風家族』

『長いお別れ』

まさかの結果を迎える人物だが、そこに至るまでの独特の存在感が作品全体によく効いている(安井文)

③ 佐藤浩市 『樂園』、『赤い雪』

やっと枯れてきていぶし銀の味が出てきた(林)



『火口のふたり』

【ベスト3選出依頼者】（敬称略）

池村英子 津のナチュラリスト

伊藤有紀 映画監督

井上静夫 同人誌主宰

岩崎久美子 映画ファン

太田義幸 通りすがりの映画好き

田中 忍 三重映画フェスティバル会長

西松 優 日本映画研究者（愛知）

橋本正幸 画家

安井 文 謎の美女（山口）

藤田 明 映画評論家

【スタッフ】中村藤生、林 久登

森 次男、村上 暁

【助演女優賞】

① 瀧内公美 『火口のふたり』

裸身そのものが呼吸し演技するものだと思った(西松)、よくぞ脱いだ、スリムで躍動する躰は圧巻(林)

② 市川実日子 『よこがお』

独特の表現(井上)、憧憬から狂気の感情に変わり行動する女の不気味を好演(西松)

③ 松岡茉優 『ひとよ』、『蜜蜂と遠雷』

スクリーンに爽やかな風を送り込んでくれた(林)

【新人賞】

① 岸井ゆきの 『愛がなんだ』

懐かしい青春映画を思い出させてくれる空気感を持っている(田中)

② YOSHI 『タロウのバカ』

爆発した演技(井上)

③ 清原果耶 『いちごの唄』、『ディアドナイト』

今後さらにブレイクする期待感(井上)

【外国作品賞】

① 『グリーンブック』 米 ピーター・ファレリー

観ないと損するゾ(田中)、2人の個性のぶつかり合いが楽しい(池村)

② 『運び屋』 米 クリント・イーストウッド

麻薬の運び屋、こんな真実があったなんて…(池村)

③ 『ジョーカー』 米 トッド・フィリップス

ホアキン・フェニックスの圧倒的な役作りと演技力に支えられている美しい作品(安井文)

【特別賞】

『新聞記者』 河村光庸プロデューサー

政治の世界を敬遠しがちな映画界の中で、現政権の闇に果敢に切り込み、昨年の沈滞気味の邦画界にカツを入れた点を評価。河村は他にも左記のような秀作をプロデュースしている。(編集部)

『かぞくのくに』(2011年)『あゝ荒野』(2017年)

『i-新聞記者ドキュメント』(2019年)『宮本から君へ』(2019年)

2019年日本映画受賞一覧

キネマ旬報賞

作品賞ベスト3

- ① 『火口のふたり』 荒井晴彦
- ② 『半世界』 阪本順治
- ③ 『宮本から君へ』 真利子哲也

監督賞

白石和彌 『ひとよ』

主演男優賞

池松壮亮 『宮本から君へ』

主演女優賞

瀧内公美 『火口のふたり』

助演男優賞

成田凌 『愛がなんだ』

助演女優賞

池脇千鶴 『半世界』

新人賞

関水渚 『町田くんの世界』

鈴鹿央士 『蜜蜂と遠雷』

特別賞

和田誠

毎日映画コンクール

日本映画大賞

『蜜蜂と遠雷』 石川慶

日本映画優秀賞

『新聞記者』 藤井道人

監督賞

石川慶 『蜜蜂と遠雷』

主演男優賞

成田凌 『カツベン!』

主演女優賞

シム・ウンギョン 『新聞記者』

助演男優賞

吉澤健 『風待ち』

助演女優賞

池脇千鶴 『半世界』

新人賞

鈴鹿央士 『蜜蜂と遠雷』

関水渚 『町田くんの世界』

田中絹代賞

風吹ジュン

報知映画賞

作品賞

『蜜蜂と遠雷』 石川慶

監督賞

佐藤信介 『キングダム』

主演男優賞

中井貴一 『記憶にございません!』

主演女優賞

長澤まさみ 『マスカレード・ホテル』

『コンフィデンスマンJP ロマンス編』

助演男優賞

成田凌 『愛がなんだ』『チワワちやん』『さよならくちびる』

助演女優賞

小松菜奈 『来る』

新人賞

鈴鹿央士 『蜜蜂と遠雷』

『閉鎖病棟・それぞれの朝』

新人賞

鈴鹿央士 『蜜蜂と遠雷』

玉城ティナ 『悪の華』

『Diner ダイナー』

ヨコハマ映画祭

ベスト3

① 『火口のふたり』 荒井晴彦

② 『蜜蜂と遠雷』 石川慶

③ 『愛がなんだ』 今泉力哉

主演男優賞

池松壮亮 『宮本から君へ』

主演女優賞

門脇麦 『さよならくちびる』

小松菜奈 『さよならくちびる』

助演男優賞

成田凌 『愛がなんだ』

『さよならくちびる』

助演女優賞

池脇千鶴 『半世界』

新人賞

瀧内公美 『火口のふたり』

鈴鹿央士 『蜜蜂と遠雷』

杉田雷麟 『半世界』

山田杏奈 『小さな恋のうた』

特別大賞

荒井晴彦

監督、脚本家、映芸編集長として

映画芸術

ベスト3

① 『火口のふたり』 荒井晴彦

② 『半世界』 阪本順治

③ 『宮本から君へ』 真利子哲也